

住み慣れた環境（町、人）で暮らし続ける 地域共生モデル

福山市南部 1

介護事業所と NPO 法人が描く地域包括ケア

みどころ！

◇福山市南部 1 圏域の鞆学区では、「鞆の浦・さくらホーム」（有限会社親和会）と NPO 法人「鞆の人と共に暮らしを」が中心となり、住民はもとより医療福祉の関係者が連携して、高齢者、障害児・者を地域で支える体制を整える。徒歩 400メートル範囲に拠点を設け地域全体をカバーすることで、在宅生活の不安や困難さ、一人ひとりの生活に応じたきめの細かいケアと地域コミュニティを形成し、看取りにいたるまでの息の長いケアを実現する。同時に住民学習の機会にと、こども、障害、認知症など、暮らしにくさを理解しともに支えることを伝える活動も積極的に取り組む。地域が考えるわが町の地域包括ケアの実現。

地域概要

実施主体

福山市南部 1 圏域（水呑・鞆の浦）のデータ

総人口 18,747 人（高齢化率）

65 歳以上人口 6,011 人（32.1%）

75 歳以上人口 3,178 人（17.0%）

（平成 25 年 10 月現在）

鞆学区人口 4,600 人 高齢化率 42.0%

（平成 26 年 9 月現在）

「鞆の浦・さくらホーム」有限会社親和会

居宅介護支援事業所

認知症対応型共同生活介護

小規模多機能型居宅介護

放課後等デイサービス実施

NPO 法人「鞆の人と共に暮らしを」

福山市地域包括支援センター水呑

福山市南部 1 圏域は、沼隈半島の東端から南端にかけて帯状に位置する港湾とその周辺地域にある。福山市内中央に近い北部には芦田川沿いに住宅地があり、水呑、高島、走島、鞆の 4 学区からなる。福山市中心部までバスで 30 分かかる、過疎高齢化がすすむ島嶼、沿岸部の地域。歴史と景勝の地である鞆の浦は、国立公園に指定されており観光地としてにぎわいがある。住民の地域への愛着がとりわけ熱く、多くのエピソードをもつ。

地域包括支援センターの活動紹介

（委託）医療法人常仁会。スタッフ 4 人（看護師（管理者）1 人、社会福祉士 2 人、主任ケアマネ 1 人）

（活動）各サロンで実施している介護予防事業は、サロン利用者、町内会長と相談してメニューを決め、講師を地域の専門職の協力を得て行っている。サロンのほか、宅老所、鞆コミュニティにセンター職員が出向き健康相談を行い、住民ニーズの早期把握、健康問題の発見、健康に関する意識啓発などを行う。医療・介護連携で専門職のネットワークづくりを目的に、月に 1 回、医師・介護支援専門員、訪問看護師、訪問介護員が集まり、勉強会等を行っている。また、医師会主導の研修会にも地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等が参加して質の向上を図る。

＜関係機関の相互連携状況＞

市社会福祉協議会や民生委員児童委員連絡協議会等と連携しネットワークづくり進めており、座談会に出席したり、民生児童委員との同行訪問も行っている。また、ボランティアの養成等を行う学区社協（福祉を高める会）と連携し、行事の共同開催等を行うほか、「タクロウズ」（旧宅老所の名称）会議の開催や、町内会、自治会の「まちづくり推進会議」への参加もある。認知症については社会福祉協議会がタクシー会社への働きかけを行なうなど地域で見守る体制作りを行いつつある。

取組の背景と課題認識

福山市中心部から離れた鞆の浦では高齢過疎がすすみ、在宅生活の困難さが日々増大しつつあると住民が感じはじめていた頃、「さくらホーム」開設者は、理学療法士としての経験から、地域に障害者、高齢者の居場所がないことに気づく。そこで、障害者、高齢者を元気にする地域の潜在的な力を発揮するために、高齢者の在宅生活を支援する生活密着型多機能ホーム「鞆の浦・さくらホーム」を設立。在宅介護の支援体制をつくる中で、老いや認知症などの障害の理解、互助意識の啓発などを通し、鞆学区の特長をいかした、人と地域を結ぶネットワークをひろげる取組みを住民とともにスタートさせた。



＜鞆の浦・さくらホーム＞

取組の内容

【1】鞆地区において「地域共生ケア」をめざし、「鞆の浦・さくらホーム」を開設

鞆の浦・さくらホーム

- ・ 居宅介護支援事業所、通所介護（定員 15 人）
小規模多機能型居宅介護（A 定員 25 人、B 定員 12 人、C 定員 12 人：B、C はサテライト）
グループホーム（定員 9 人）
- ・ 理 念 高齢者や障害者を理解し、受け入れ、支え合って生きていける地域社会をめざす
施設職員は「高齢者と家族と地域を結ぶ」役割を担う
「住民の意識が変わる」ことを基に地域のコミュニティ力を高めていく
- ・ 地域づくり 住民参加の機会創出として、鞆学区の住民に認知症についての理解をすすめ、認知症の人を見守る中で徘徊等困難があれば連絡してもらい、すぐに対応する等住民との連携を深める。また、地域の空き店舗を活用して、高齢者、認知症の人の居場所づくりを行う。

【2】NPO 法人「鞆の人と共に暮らしを」との協働体制整備

認知症の人や介護者のどんな困りごとでも、日常的にいつでも駆けつけ対応することができる法人の活動内容

統廃合となった保育所を利用して活動する。見守り、簡単な家事手伝い、研修運営、ネットワークづくり、情報発信、介護予防の拠点活動など、いつでもだれでも集える居場所機能として、子供たちの育成、放課後等デイサービス他を実施。また、地域共生拠点運営事業を「鞆の津ふれあいサロン」を拠点に実施する。高齢者のみならず全地域住民との接点を創出する取組を展開する。



【3】 轄学区全域をカバーする生活支援の4拠点整備

狭い路地が入り組む轄学区では自家用車よりも徒歩での移動が便利。

地域の高齢者が徒歩で行き来できる場所に拠点を4か所整備した。

拠点整備によって

① 在宅生活の継続ができる

住み慣れた自宅での暮らしを継続するために、介護サービスとNPOによる生活支援サービスが連動することで、24時間365日、介護困難、虐待、徘徊SOSなど、いつでも利用者、家族の元へ駆けつけられることができるようになったほか、地域住民による声かけなどにより、看取りに至るまでの体制が整う

② 地域住民同士の支え合いが実現できる

昔馴染みの濃厚な人間関係だからこそ密接した距離感での相互支援ができる
日常的な地域住民の支えの後ろに小規模多機能ケアが機能するという安心感によって、住民の支え合いの負担を軽減できている

③ 緊急時の対応と関係機関との連携が可能

住民との研修や話し合いの機会ごとに在宅介護をテーマにとりあげていることから、緊急時の対応方法の合意形成が整い、医療介護の各関係機関へスムーズな連携がとれている



取組の経緯

平成16年4月 「鞆の浦・さくらホーム」開設
その後、地域生活支援の拠点づくりとして
「さくらホーム・原の家」「さくら荘・サテライト」を開設

平成23年4月 地域住民主体でNPO「鞆の人と共に暮らしを」設立
地域互助の拠点「さくらんぼ（放課後等デイサービス）」を開所。協働により
鞆学区の利用者の生活の400メートル圏内に4つの拠点づくりがすすむ

<地域状況>

地域内の処遇困難ケースや介護予防事業等の際には地域包括支援センターと協働して実施している。沼南病院、徳永病院、藤井病院等の在宅医療に積極的な医療機関と連携。3病院はいずれも鞆学区の住民の医療の拠点となっている。

取組の成果と今後の展開と課題

【成果】

鞆学区に暮らす住民が、障害を持って、介護が必要になっても「住み慣れた環境で暮らし続けられる」ための4拠点を、地域に根を下ろし地道なケアを継続する法人とNPOが中心となって整備した。これによって、住民の障害や認知症への理解がすすみ、地域の中で手助けしたり見守ったり、自然に地域の人と繋がりがながらケアが受けられる。高齢者ばかりでなく障害児・者の人々も含めた共生の町づくりが進んだ。背景には、以前からの医療福祉関係機関の協力体制が機能し介護支援に限定せず、今後のまちづくりを見据えた取り組みが展開できている。

【課題と展望】

今後の人口減少による担い手不足を補い、地域活性化をめざした定住促進などの取り組みをはじめ、インフォーマルサービスの展開と住民の参画、啓発活動促進などが必要。行政と協働し、地域住民等インフォーマルケアを中心としたネットワークづくりをすすめる。また、鞆学区の地域包括ケアシステムを、水呑地区全域へ水平展開させる必要がある。

取組のポイント、機能強化ポイント

鞆の浦に特有の観光資源や、地域住民相互の人間関係力を活かしていこうとする工夫と行動力によって鞆学区の地域包括ケア体制が整備された。従来からの関係機関との協働が有機的に機能したことと同時に、事業所に従事するケアマネジャーやケアスタッフの、住民の暮らしに溶け込んでいこうとするきめこまやかな日々の動きこそ、住民の信頼を得るに至るいちばんのポイントといえる。

連絡先	福山市地域包括支援センター水呑	084-956-2310	曾我部 律子
	広島県地域包括ケア推進センター	082-254-1166	
	広島県健康福祉局地域包括ケア・高齢者支援課	082-513-3198	